

# 平成26年3月期 決算説明資料

平成26年5月14日

## 【本資料に関する注意事項】

本資料は、本年4月30日に発表しました「平成26年3月期決算短信」の決算補足説明資料として、同期間の業績動向を補足説明することを目的として作成したものです。本資料に掲載されている日本調剤株式会社及び同社子会社の業績目標、計画、事業展開等に関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されたものであり、事業等のリスクや不確実な要因によっては、大きく変化する可能性があります。またその達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる場合がありますことをご承知おきください。また、本資料は投資勧誘のため作成されたものではありません。投資を行う際には、十分に投資家ご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

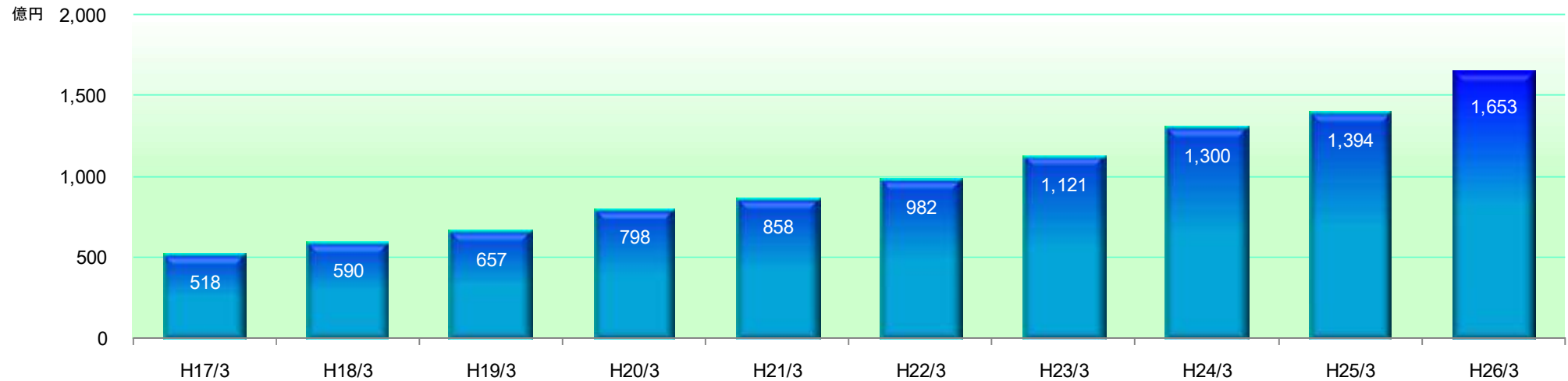


日本調剤株式会社

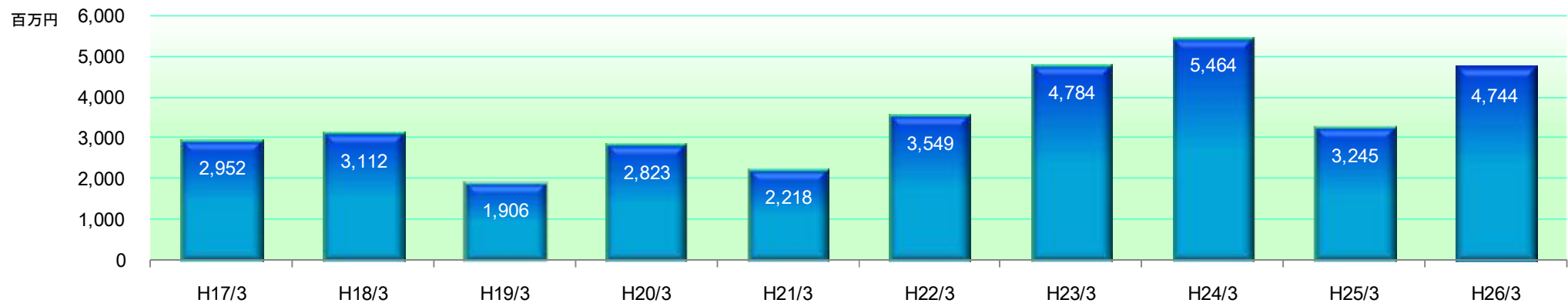
(証券コード 3341)

# 1.平成26年3月期 業績報告

## 連結売上高推移



## 連結営業利益推移



平成26年3月期は調剤報酬改定と薬価改定のない年度であり増収基調。  
 長生堂製薬子会社化が連結売上規模拡大に寄与。  
 採算性を重視した出店、経費抑制により収益性も改善。

(単位:百万円)

	H24/4-H25/3	H25/4-H26/3	対前年同期 増減額	同 増減率	H26/3 通期予想※
売上高	139,466	165,347	25,880	18.6%	166,196
売上原価	117,972	139,723	21,751	18.4%	137,748
売上総利益	21,494	25,623	4,129	19.2%	28,448
販管費	18,248	20,878	2,630	14.4%	21,566
営業利益	3,245	4,744	1,498	46.2%	6,881
経常利益	2,855	4,188	1,332	46.7%	6,413
当期純利益	184	1,901	1,716	928.4%	3,290

※平成25年4月30日付 公表数値

調剤薬局事業は処方せん単価の上昇と前年出店店舗が寄与。  
 医薬品製造販売事業は長生堂製薬の子会社化による増収効果。  
 医療従事者派遣・紹介事業は薬剤師派遣紹介を中心に順調に推移。

(単位:百万円)

	H24/4-H25/3	H25/4-H26/3	構成比	対前年同期 増減額	同 増減率
調剤薬局事業	131,052	145,954	88.3%	14,902	11.4%
うち一般薬等売上	1,853	1,980	1.2%	127	6.9%
医薬品製造販売事業	5,328	15,489	9.4%	10,161	190.7%
医療従事者派遣・紹介事業	3,085	3,903	2.4%	817	26.5%

—昨年10月の「業績改善へ向けた取り組み」以降、経費削減を継続。  
給与手当、研究開発費では長生堂製薬子会社化による増加分あり。

(単位:百万円)

	H24/4-H25/3	H25/4-H26/3	構成比	対前年同期 増減額	同 増減率
<b>販 管 費</b>	18,248	20,878	12.6%	2,630	14.4%
（ 給 与 手 当 ）	2,935	3,260	2.0%	325	11.1%
（ 賃 借 料 ）	2,070	2,246	1.4%	175	8.5%
（ 消 費 税 等 ）	5,157	5,580	3.4%	423	8.2%
（ 研 究 開 発 費 ）	1,023	1,534	0.9%	511	50.0%

主な増減要因

【販管費】  
・給与手当  
・研究開発費  
(長生堂製薬連結による)

※構成比は売上に対する比率

(単位:百万円)

	H25/3末	H26/3末	増減額
流動資産	43,037	53,373	10,336
固定資産	52,102	63,921	11,818
有形固定資産	32,459	42,123	9,664
無形固定資産	9,423	11,103	1,679
投資その他	10,219	10,694	474
資産合計	95,140	117,295	22,154
流動負債	44,702	55,666	10,964
固定負債	35,735	45,779	10,043
負債合計	80,437	101,446	21,008
純資産合計	14,702	15,849	1,146
自己資本	14,702	15,849	1,146

## 主な増減要因

<b>【流動資産】</b>	
・受取手形	+1,270
・売掛金	+3,750
・原材料及び貯蔵品	+3,157
<b>【固定資産】</b>	
・土地	+2,103
・建設仮勘定	+5,896
・のれん	+1,540
<b>【流動負債】</b>	
・買掛金	+2,319
・支払手形	+2,102
・短期借入金	+4,350
・1年内償還予定の社債	+7,000
・1年内返済予定の長期借入金	△6,776
<b>【固定負債】</b>	
・長期借入金	+15,320
・社債	△7,000
<b>【純資産】</b>	
・利益剰余金	+1,395

(単位:百万円)

	H24/4-H25/3	H25/4-H26/3
営業活動による キャッシュ・フロー	2,885	6,243
投資活動による キャッシュ・フロー	△6,422	△14,510
財務活動による キャッシュ・フロー	5,496	8,782
現金・現金同等物の 増加額	1,958	514
現金・現金同等物の 現期首残高	12,554	14,513
現金・現金同等物の 現期末残高	14,513	15,027

【営業活動によるCF】

- ・税金等調整前当期純利益 3,975
- ・減価償却費 3,825
- ・売上債権の増加額 △1,942
- ・法人税等の支払額 △2,171

【投資活動によるCF】

- ・有形固定資産の取得  
による支出 △8,227
- ・連結の範囲の変更を伴う  
子会社株式の取得による支出  
△4,588

【財務活動によるCF】

- ・長期借入による収入 19,400
- ・長期借入金の返済による支出  
△10,920

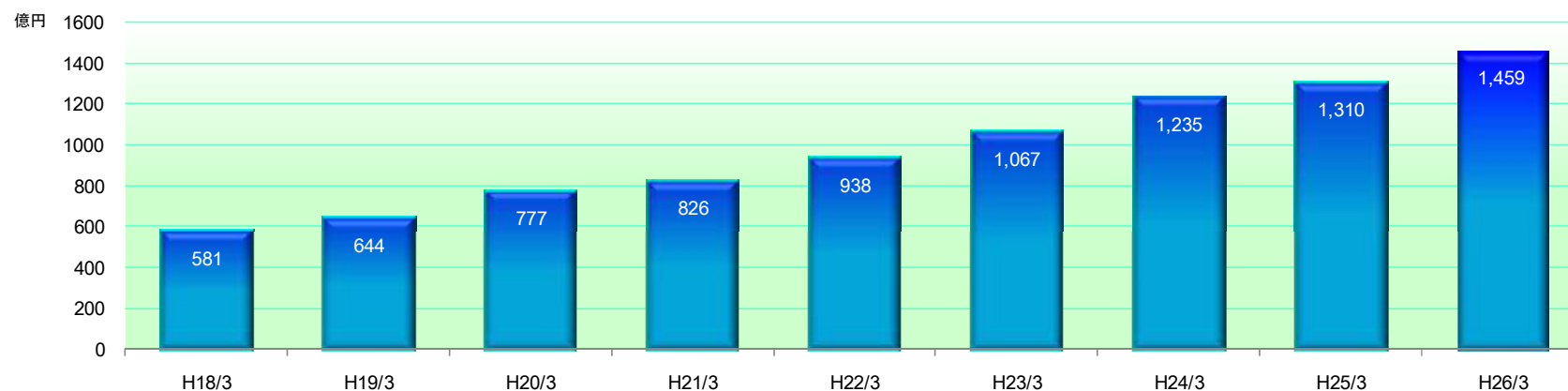


(単位:百万円)

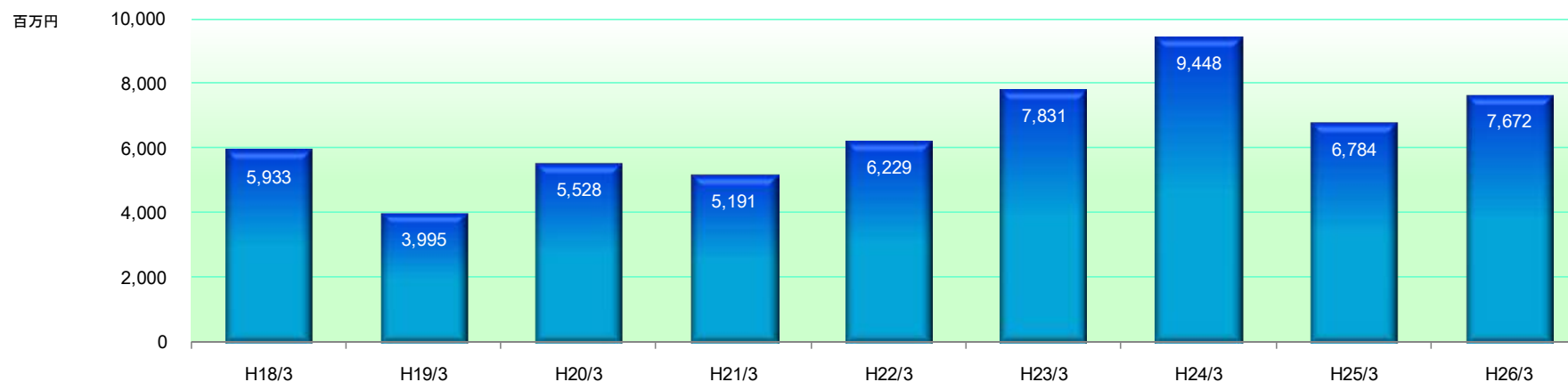
	H24/4-H25/3	H25/4-H26/3	増減額	増減率
売上高	131,052	145,957	14,905	11.4%
営業利益	6,784	7,672	887	13.1%

(※セグメント間取引消去前)

## セグメント売上高推移



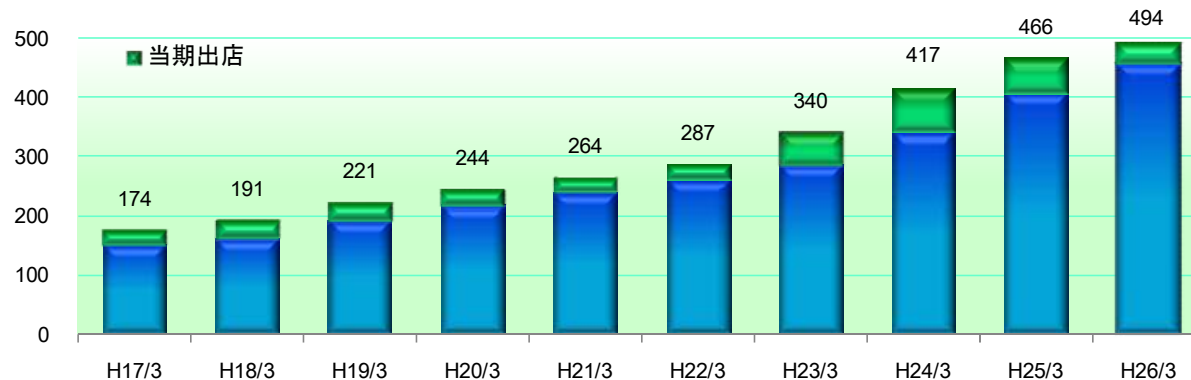
## セグメント営業利益推移



H25/4-H26/3 実績	
出店数	37
閉店数	9
総店舗数(3月末)	※ 494

※物販專業の1店舗を含む

## 各期末店舗数推移



## 当期出店の主な店舗



	H26/3末 店舗数	H25/4-H26/3 出店数	H25/4-H26/3 閉店数	H25/3末 店舗数
北海道	44	2	1	43
東北	39	0	0	39
関東	246	18	5	233
うち東京都・神奈川県	183	13	4	174
甲信越	25	6	0	19
東海	36	3	1	34
関西・北陸	46	3	2	45
中国・四国	32	3	0	29
九州	26	2	0	24
計	※494	37	9	466

※店舗数に物販専門の1店舗(神奈川県)を含む

改定なき年度であり、処方せん単価上昇。  
既存店についてもオペレーション改善により売上増加。

## 【日本調剤グループ 出店期別店舗調剤売上推移】

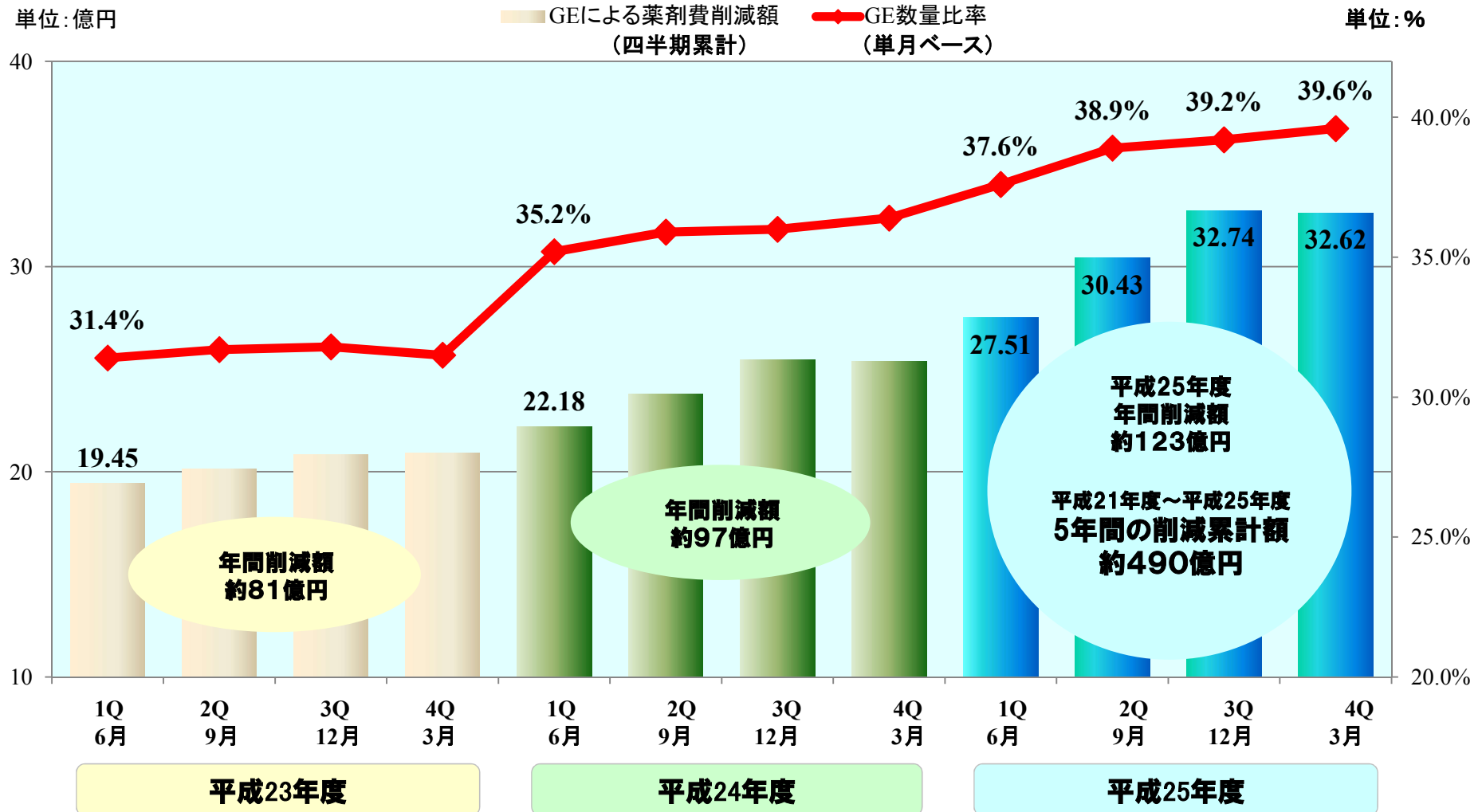
(単位:百万円)

	H26/3末 店舗数	H24/4-H25/3	H25/4-H26/3	増減額	増減率
既存店 (~H24/3)	404	126,482	135,588	9,105	7.2%
前期出店 (H24/4~H25/3)	53	2,106	5,160	3,053	144.9%
今期出店 (H25/4~H26/3)	37	—	2,788	2,788	—
その他	—	267	130	△136	△51.0%
計	494	128,856	143,667	14,810	11.5%

- ・ 調剤売上のみ(OTC等含まず)、発生ベース(返戻再請求を反映せず)
- ・ 期中閉局店舗分はその他に集計しております
- ・ 店舗数に前年度中に物販専業に転換した1店舗を含む

地域	H24/4-H25/3	H25/4-H26/3	前年同期比(%)
	処方せん枚数(千枚) (構成割合)	処方せん枚数(千枚) (構成割合)	
北海道	954 (9.1%)	965 (8.7%)	101.1%
東北	1,001 (9.6%)	1,013 (9.1%)	101.2%
関東	5,258 (50.2%)	5,659 (51.0%)	107.6%
うち東京都・神奈川県	3,782 (36.1%)	4,055 (36.6%)	107.2%
甲信越	268 (2.6%)	296 (2.7%)	110.3%
東海	644 (6.1%)	707 (6.4%)	109.9%
関西・北陸	1,251 (11.9%)	1,305 (11.8%)	104.3%
中国・四国	671 (6.4%)	678 (6.1%)	101.0%
九州	432 (4.1%)	464 (4.2%)	107.5%
合計	10,482 (100.0%)	11,090 (100.0%)	105.8%

一般名処方せんの増加、変更不可処方せんの減少が継続。  
医療機関に対するジェネリック医薬品使用の働きかけをさらに強化。  
数量ベース使用比率が順調に上昇。



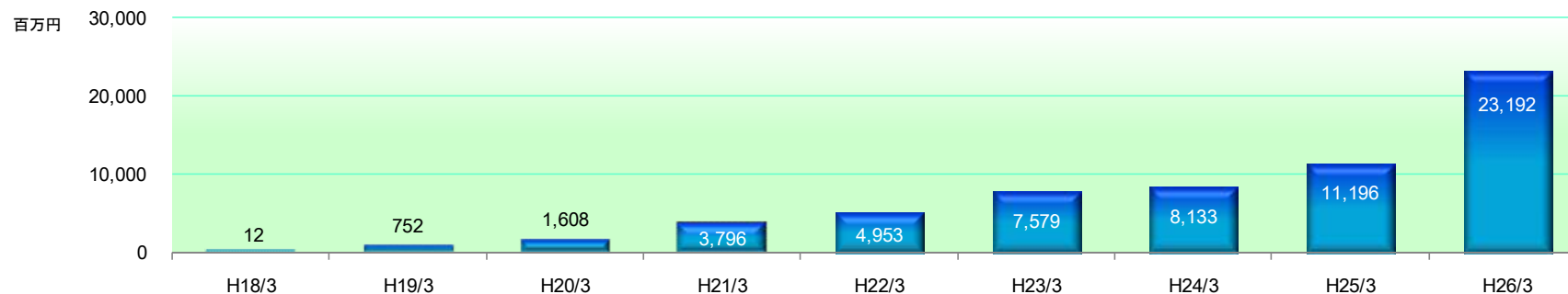
長生堂製薬の子会社化により、大幅増収増益。  
重複品目の見直し、生産工場移管など効率化の取り組みを推進中。

(単位:百万円)

	H24/4-H25/3	H25/4-H26/3	増減額	増減率
売上高	11,196	23,192	11,996	107.1%
営業利益	233	500	267	114.6%

(※セグメント間取引消去前)

## セグメント売上高推移

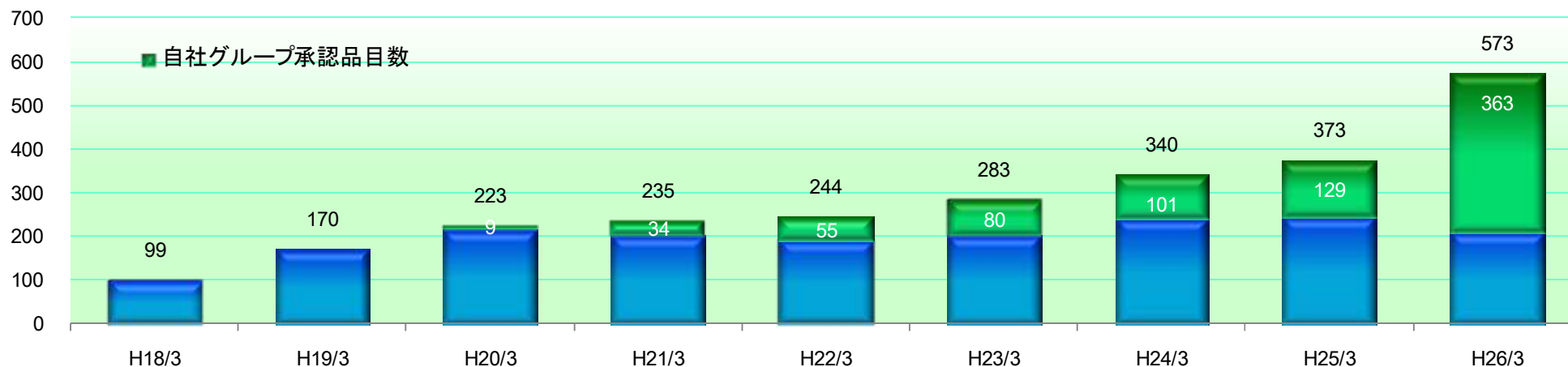


## セグメント営業利益推移





## 販売品目数推移



## 平成25年度 新規収載(28品目)

名称
タルチレリンOD錠5mg「JG」
アゼルニジピン錠8mg「JG」
アゼルニジピン錠16mg「JG」
リセドロン酸Na錠17.5mg「JG」
ロキソプロフェンNaゲル1%「JG」
ロキソプロフェンNaテープ100mg「JG」
ロキソプロフェンNaテープ50mg「JG」

名称
ロキソプロフェンNaパップ100mg「JG」
アムロジピン錠10mg「JG」
アムロジピン錠10mg「CH」
アスピリン腸溶錠100mg「JG」
プラミペキソール錠0.125mg「JG」
プラミペキソール錠0.5mg「JG」
ドネペジル塩酸塩OD錠10mg「JG」

名称
ドネペジル塩酸塩錠10mg「JG」
フェキソフェナジン塩酸塩錠30mg「JG」
フェキソフェナジン塩酸塩錠60mg「JG」
バラシクロビル錠500mg「JG」
アジスロマイシン錠250mg「JG」
アジスロマイシンカプセル小児用100mg「JG」
アジスロマイシン細粒小児用10%「JG」

名称
メコバラミン錠250μg「JG」
メコバラミン錠500μg「JG」
アレンドロン酸錠5mg「JG」
アレンドロン酸錠35mg「JG」
クエン酸第一鉄Na錠50mg「JG」
アムロジピンOD錠10mg「JG」
アムロジピンOD錠10mg「CH」



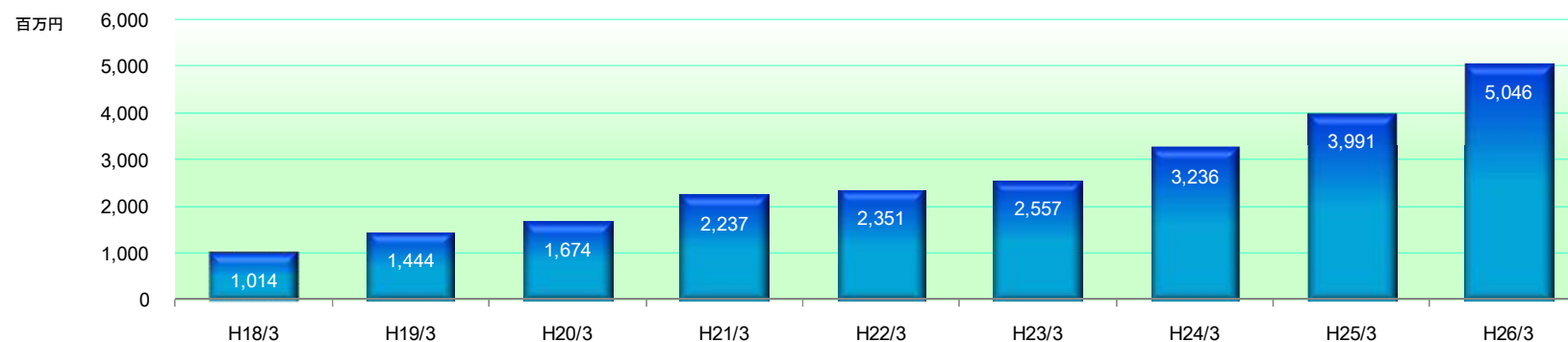
主力の薬剤師派遣を中心に好調、広告宣伝費等経費の見直しで大幅増益。

(単位:百万円)

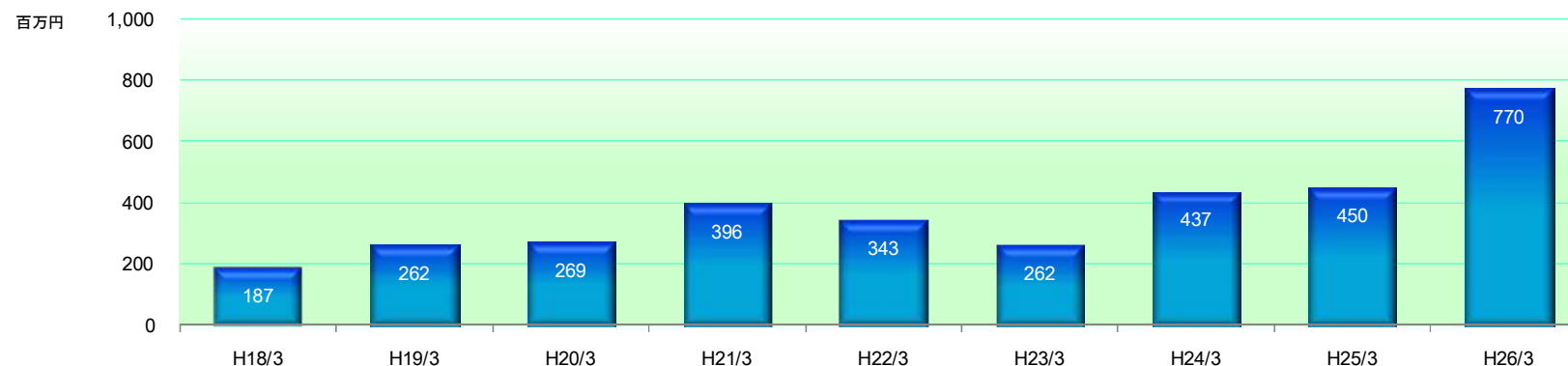
	H24/4-H25/3	H25/4-H26/3	増減額	増減率
売上高	3,991	5,046	1,055	26.4%
営業利益	450	770	319	71.0%

## セグメント売上高推移

(※セグメント間取引消去前)



## セグメント営業利益推移



連結業績目標

(単位:百万円)

	H26年3月期	H27年3月期	対前年比	
	実績	目標	増減額	増減率
売上高	165,347	188,576	23,229	14.0%
営業利益	4,744	6,660	1,916	40.4%
経常利益	4,188	6,080	1,891	45.2%
当期純利益	1,901	3,202	1,300	68.4%

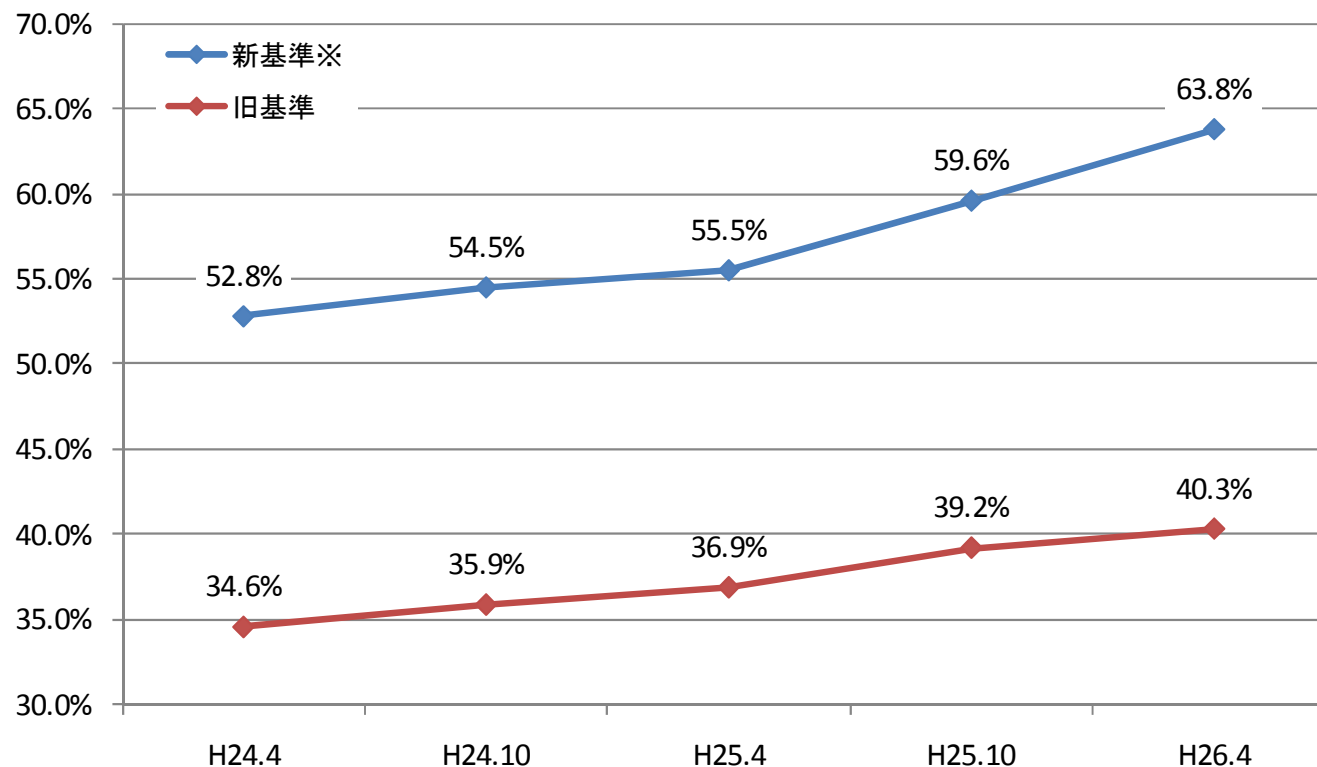
事業セグメント別売上目標(セグメント間取引消去前)

(単位:百万円)

	H26年3月期	H27年3月期	対前年比	
	実績	目標	増減額	増減率
調剤薬局事業	145,957	160,358	14,401	9.9%
医薬品製造販売事業	23,192	32,605	9,413	40.6%
医療従事者派遣・紹介事業	5,046	6,517	1,471	29.1%
合計	174,196	199,482	25,285	14.5%

## II. 日本調剤グループの事業展開

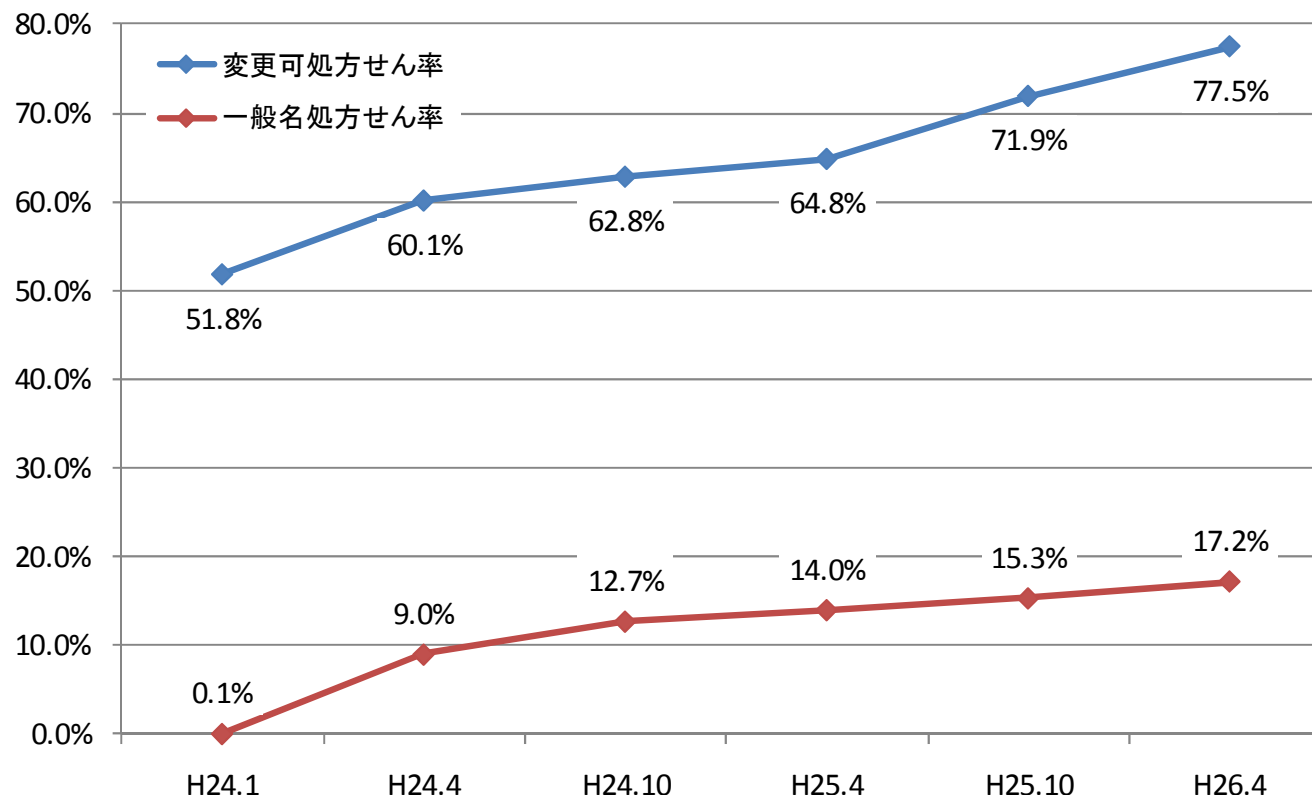
## ジェネリック医薬品使用率(数量ベース) 全社平均



✓ **新基準※で63.8%に到達 (旧基準で40.3%)**

※新基準は平成25年4月厚生労働省にて示された後発医薬品使用促進ロードマップに基づく算出方法による

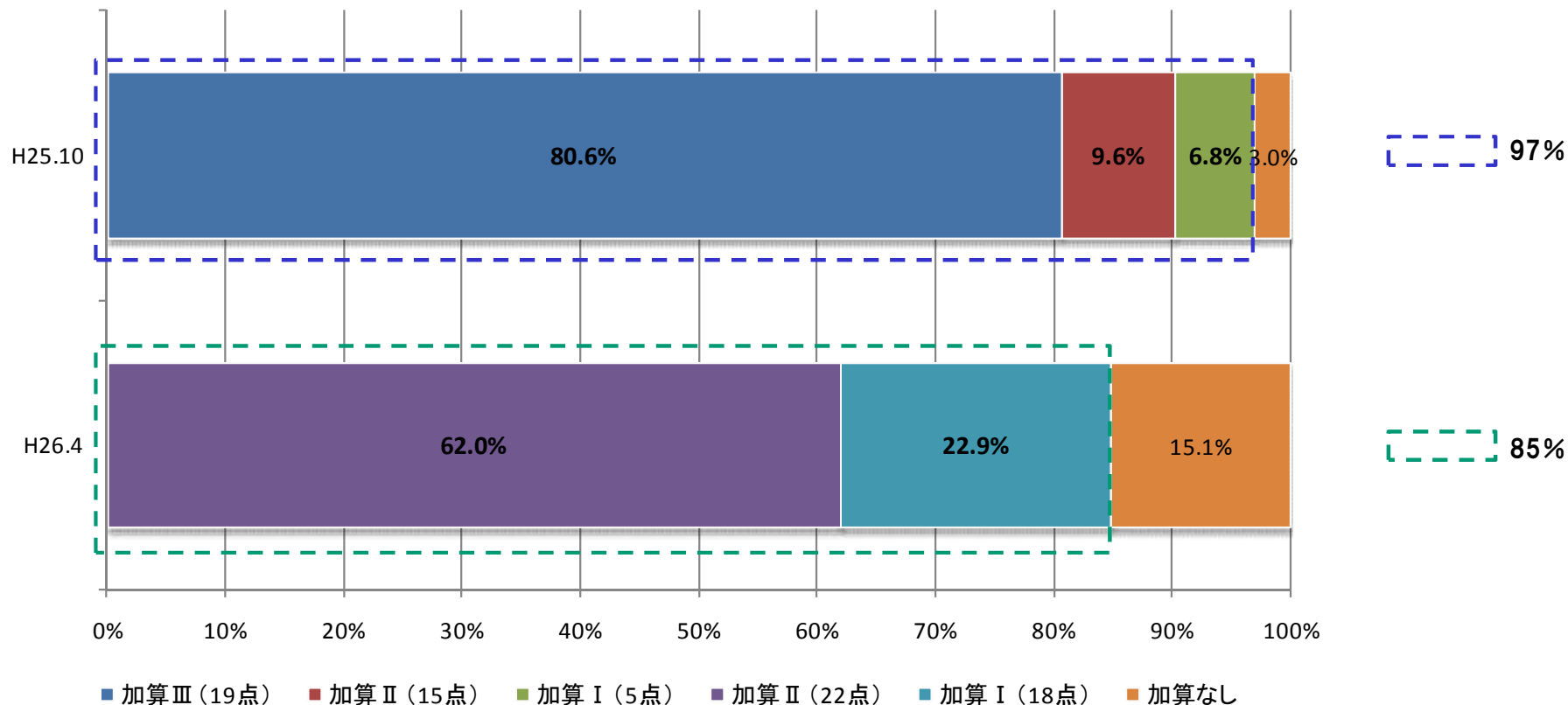
## 変更可・一般名 処方せん応需状況



備考:変更可処方せん=処方せんにジェネリック医薬品処方不可指定のない処方せん  
数字は当社薬局における応需処方せんによる数値

- ✓ 「変更不可処方せん」2割以上残るも減少傾向顕著に
- ✓ 一般名処方せんは引き続き増加傾向に

## 後発医薬品調剤体制加算 算定状況



※開局後3カ月未満の店舗は加算算定の対象外であることから、計算から除外

▭▭▭▭ 前回加算 ▭▭▭▭ 今回加算

- ✓ 「加算II(22点)」「加算I(18点)」 85%の店舗で算定
- ✓ 全ての店舗で「加算II(22点)」の算定を目指す

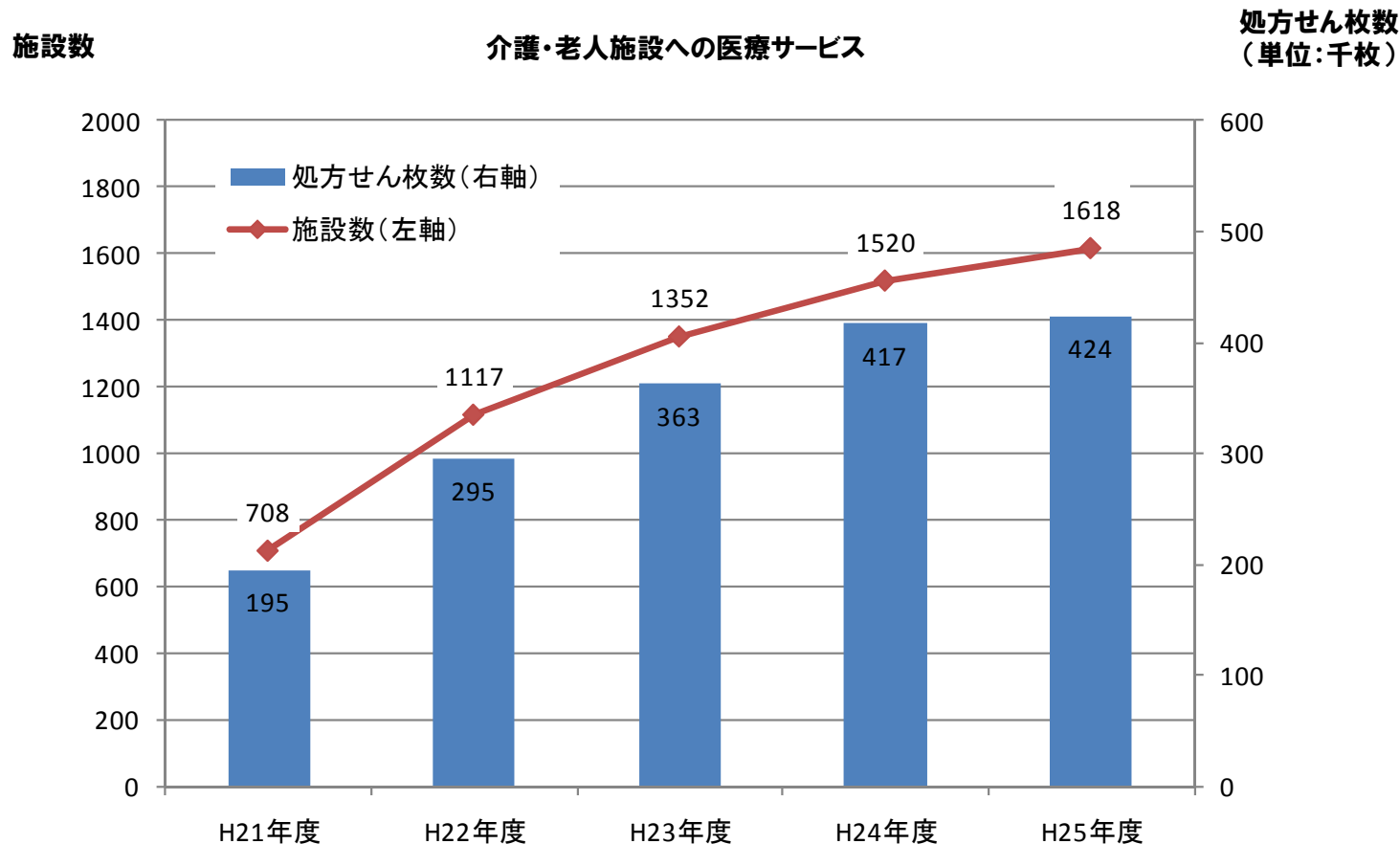
## 通期出店状況 店舗タイプ別出店数

店舗タイプ	上期 出店数	3Q 出店数	4Q 出店数	通期 出店数	通期 閉店数	通期 増減	累計
門前型	11	8	6	25	2	23	348
MC(医療モール)型	6	2	1	9	1	8	54
面対応型	3	-	-	3	6	-3	91
合計	20	10	7	37	9	28	493

※物販専業の1店舗を除く

- ✓ 「門前型」 病院動向を注視し、前期以上の出店拡大をはかる
- ✓ 「MC型」 前期水準のハイペース出店を継続
- ✓ 「面対応型」 収益性を精査し、着実な出店を図る

## 介護・老人施設サービス、在宅訪問を推進



✓ 「施設」 取引施設数、処方せん枚数ともに着実に増加

✓ 「在宅」 在宅担当チーム※<sup>1</sup>にて約170人※<sup>2</sup>の患者宅を訪問

※<sup>1</sup>在宅担当チーム: 健保施設推進部内に組織 ※<sup>2</sup>平成26年4月末現在



## 医薬品生産体制のさらなる強化

長生堂製薬  
本社工場・本社第二工場  
所在地:徳島県徳島市府府町



川内工場  
所在地:徳島県徳島市川内町



現テバ製薬 春日部工場  
(取得予定:平成26年10月末)  
所在地:埼玉県春日部市南栄町



日本ジェネリック  
つくば第一工場 N棟・S棟  
所在地:茨城県つくば市和台

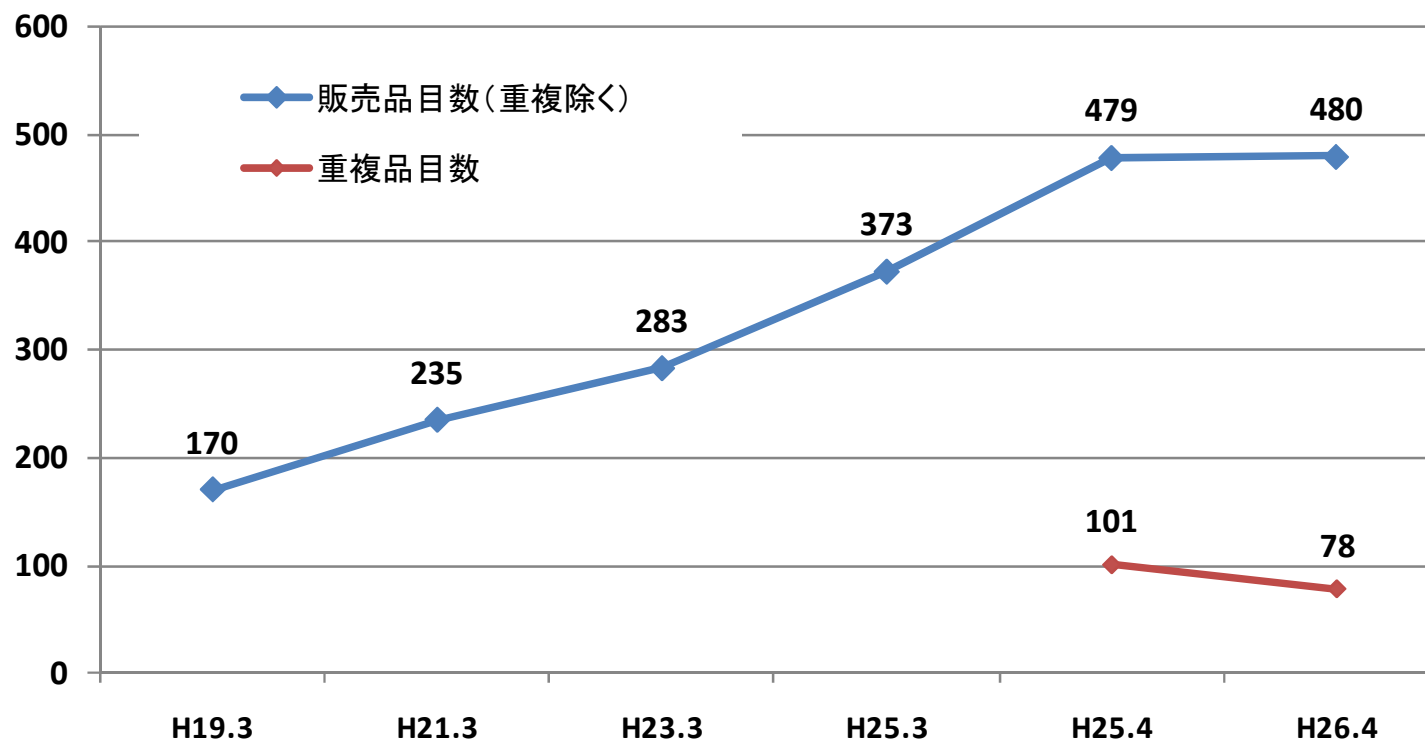


つくば第二工場  
所在地:茨城県つくば市和台

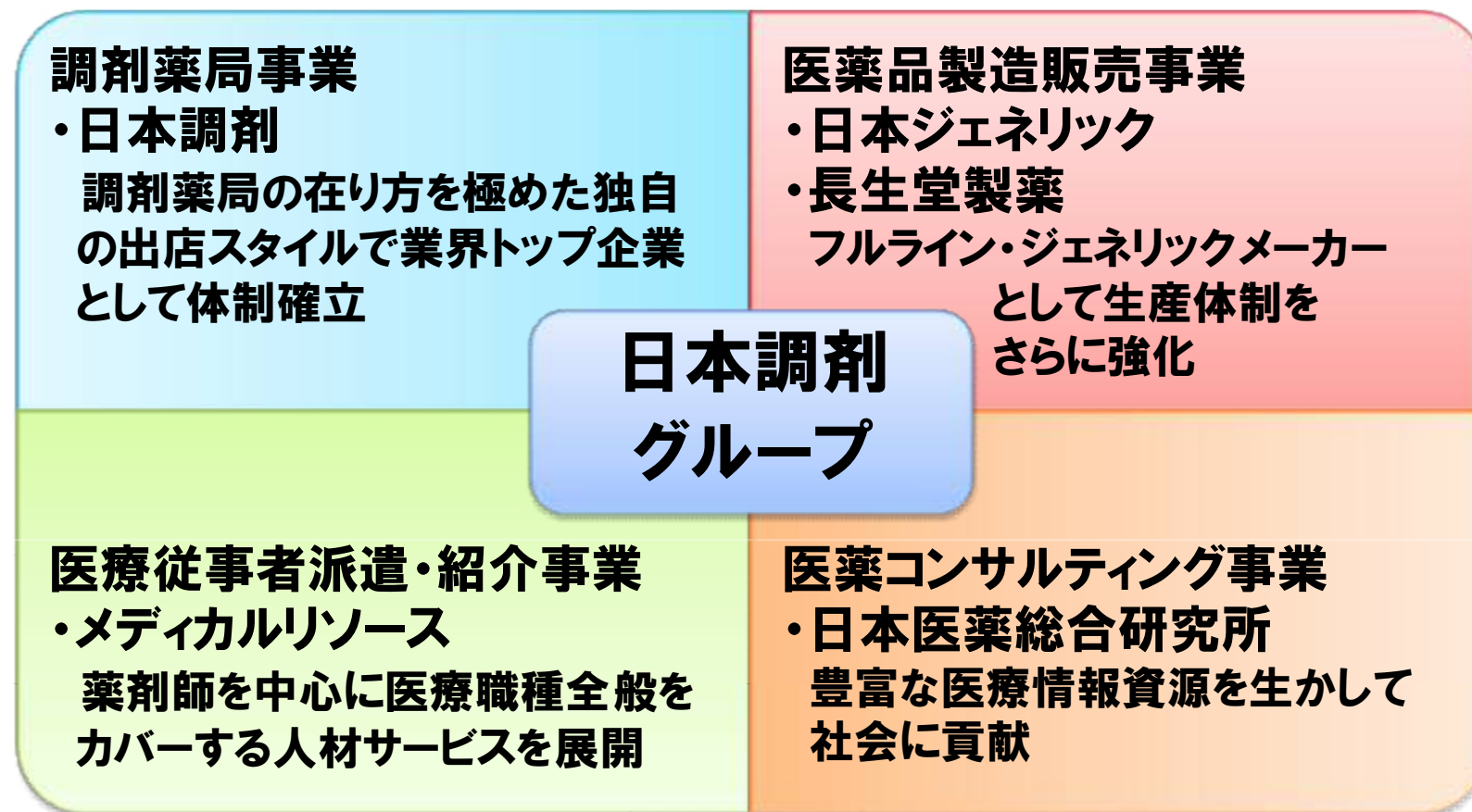


✓ **長生堂製薬子会社化および 春日部工場(現テバ製薬)取得により生産体制のさらなる強化を進める**

## 日本ジェネリック販売品目数 推移



- ✓ 長生堂製薬子会社化による重複品について整理が進む
- ✓ 重複品減少も追補品により販売品目数(重複除く)は維持



**社会保障の効率化を実現できる医療グループとして  
日本の医療に貢献します**

● IRお問い合わせ先

日本調剤株式会社 経営企画部 IR担当まで  
〒100-6737 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
グラントウキョウノースタワー37F  
電話: 03-6810-0800(代表)  
E-Mail: ir-info@nichoco.jp  
IR専用ページ : <http://www.nichoco.jp/ir>